

# おおぞら

No.30 (147)

社会福祉法人 聖隸福祉事業団  
総合病院 聖隸三方原病院  
聖隸おおぞら療育センター

〒433-8558  
静岡県浜松市北区三方原町3453  
TEL 053-437-1467

発行責任者 萩野和健 功治  
編集者 横地功治

2011年12月1日

## 達成感・満足感の得られる活動

所長 横地 健治

重症心身障害児(者)がどんな生活を送つたら、良い生活を送つたといえるのかは重要な問題です。それでは、私たちはどんな時に、今自分は良い人生を送つていると感じるでしょうか。いろいろな場面があるでしょうが、ひとつは、自分が目標に向かって努力して、それがかなえられたときです。「できた」、「やった」と思う瞬間です。これが、満足感・達成感を感じる活動とを考えます。こうした生活行為は価値が高いことに異論はないでしょう。それでは、有意な言語理解のない重症心身障害児(者)にとって、満足感・達成感を感じる活動とはどんなものでしょうか。

有意な言語理解・表出のない人たちの知能レベルは、1歳未満の健常児(乳児)相当と理解されています(似ていても、決して同じではありません)。それでは、乳児がどんな活動をしているのだろうと考えると、すぐ思いつくのは、「いないいないばー」です。乳児が最初にいらないばーと出会うのは、あいがしらのはずです。では、その時母親

はなぜこれをやるかというと、我が子の最近の様子を見ていって、これをすれば喜ぶのではないかと漠然と思い、思わずやってしまったのではないかと思うか。一見偶然のような出来事ですが、予定調和的な必然性があると思われます。以後、乳児はこれを期待するようになり、さらには、母親に対して自分からいいいいないバーをやるようになります。こうした過程で、乳児がいいないないバーを期待し、それをやつてもらつて嬉しかったら、その子は満足感・達成感を得たと考えます。さらに自分でそれをやって、母親の笑顔を引き出したらさらに高い満足感・達成感を得たでしょう。なお、いらないないバーは発達心理学の重大な関心事であり、その議論は、有意な言語表出のない重症心身障害児(者)の内的世界を理解するために役立つこともあります。

以上は健常乳児の例ですが、これと同じようなことは重症化されています(似ていても、決して同じではありません)。そこで同じではありません)。それでは、乳児がどんな活動をしていいのだろうと考えると、すぐ思いつくのは、「いないいないばー」です。乳児が最初にいらないばーと出会うのは、あいがしらのはずです。では、その時母親

その達成を良いこととする表出が見られたならば、それは満足感・達成感のある活動とみなします。手を使って作ったものが実際に見えた方が、活動の結果がわかりやすいですが、大多数の重症心身障害児(者)では、手を使う活動には大きな制約があります。そのため、見たり、聞いたり、ふれさせたりすることが活動の主体になります。これらは「見すると受け身のものであり、満足感・達成感につながる能動性があるものとはみなされないかもしれません。しかし、以下のよう満足感・達成感を広く解釈すれば、この見解は当たらないことになります。

聞こえてくる音や声の変化に注意がいき、今まで聞こえてきたものとその先聞こえてくるものを「続きのもの」と認識し、それらを全体として心地よく感じたなら、その聞こえの世界に満足感・達成感を感じたとすればいいと思います。これは、健常者がリズムやメロディに感ずる好ましさと同等と考えます。また、聞こえてきたものに関心があり、その先に起ころる変化を期待し、その通りになれば満足感が得られるでしょう。予想外の変化が起きてても、その変化に心地よさを感じられれば、これも

満足感・達成感のレベルと思います。聞こえの世界は、言葉が出現すれば、豊富な意味を持つ世界に変します。しかし、これは大半の重症心身障害児(者)にはあってはなりません。次に、見えるもののうち、ただ単に、明るさ、色、形、ものの位置が変化するだけのものなら、前述のように満足感・達成感を判断すればいいと考えます。見たものに名前をつけて区別する段階になると、見える世界も豊富な意味を持つ世界になります。しかし、人の顔を見られないことになります。

「ひとみしり」をするようになります。これも、大半の重症心身障害児(者)には当てはまりません。しかし、人の顔を見つめ、人を区別することは乳児期早期からみられ始めます。心身障害児(者)には当てはまりません。しかし、人の顔を見つめ、人を区別することは乳児期早期からみられ始めます。

特定の動物やキャラクター(例えば、アンパンマン)を認識し、それに感情移入することはあります。例えば、アンパンマンを認識し、それが達成感を感じることもあります。そうですね。そうしたら、感情移入したものの立場に立つ満足感・達成感を感じることもあり、そうです。言葉を持たない重症心身障害児(者)では、こうした心の中の世界を想像して活動を考えなければなりません。

満足感・達成感を得るために